

## 年間聖句

「命の泉はあなたにあり  
あなたの光に、わたしたちは光を見る。」(詩編36編10節)

## オンライン対話

## 「ICANのベアトリス・フィン事務局長に聞いてみよう！」

※ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)とは核兵器を禁止し廃絶するために活動する世界のNGO(非政府組織)の連合体であり、2017年にノーベル平和賞を受賞しました。

ICANのベアトリス・フィン事務局長と、YMCAおよび関係者とのオンライン対話企画が行われ、国際委員の東恭子さんが参加をされました。

新型コロナの影響によりイベントが中止される中、8月4日(火)オンラインで対話集会「ICAN事務局長・ベアトリスに聞いてみよう」が実現しました。ベアトリス氏から講演が聞けるだけでなく、直接質問できる貴重な機会とあって、全国各地のYMCAからユースやスタッフ約60名が参加しました。

対話集会では、日本における「平和」に向けたユースの動きとして、日中韓YMCAユース平和委員会の活動やピースボートに参加したおりづるユースの昨夏の体験が共有されました。ベアトリス氏は「核兵器廃絶に向けて、ユースに期待すること」というテーマで講演がありました。

ユースへの期待については、昨今のMetoo運動やBLACK Lives matters運動などを、若者が社会課題に対して行動を起こす事例として、またSNSが世界の連帯を生み出す事例として例に挙げな

がら、ユースの行動することの社会的影響の大きさと、期待を伝える勇気の湧くものでした。

また彼女は、核兵器廃絶が必要な理由について「核による安全保障ではなく、核が使われた時のことを考える必要がある」、「核利用の恐れをなくすには『廃絶』が必要なのだ」ということを力説しました。対話を通じて、こうした彼女の強い思いは、被爆者の方に直接話を聞いた経験によるものだと、彼女の原点ともなるエピソードを聞くこともできました。

コロナにより世界はさらに難しい状況に直面しているけれど、今こそ政府に「何が大切か」を私たち一人ひとりが声を上げる時だと、力強くおっしゃいました。

「困難な時にこそ、自分ができていることに目を向け希望を持って一歩ずつ進むという重要なメッセージとそこに向かう勇気をいただきました。」

※10月25日に条約発行に必要な批准国が50カ国に達し、来年1月22日に条約発行が決まりました。



徐隼佳さん(ジョシュンカ/中国)

神戸YMCAでは80名以上の外国人が日本語を学んでいます。コロナ禍で日本語学習に励んでいる徐隼佳さん(ジョシュンカ/中国)をご紹介します。

## ◆日本での留学生活はいかがですか？

私は2019年4月に神戸YMCA学院専門学校日本語学科に入学しました。先生は日本語で日本語を教えているので始めは聞き取るのが難しかったです。この1年で一番印象に残っているのは、余島旅行です。みんなでゲームをしたり海で遊んだりしました。また、ユース委員会主催のイベントで日本人と一緒にバーベキューをして勉強以外にも思い出を作ることができました。

## ◆新型コロナウイルスの影響を受けましたか？

2020年2月、母が心配して中国行の航空チケットが送られ一時帰国をしました。4月の授業までには戻るつもりでしたが、3月に入ると飛行機の便数が減りチケットが取れなくなりました。4月には入国制限で日本へ戻るができなくなりました。先生からZOOMで授業することを聞き私は中国から授業を受けることにしました。

## ◆オンライン授業について教えてください。

5月は全員オンライン授業でした。6月から対面授業に切り替わりましたが私はまだ中国にいたので、教室の授業をZOOMで受けていました。オンラインだとクラスの雰囲気はわかりづらく少し寂しかったです。でも、モチベーションも下がることなく日本語の勉強ができて嬉しかったです。

## ◆日本に戻ってきて今の心境を教えてください。

10月に久しぶりに先生やクラスメートに会えて嬉しかったです。パソコンで授業を受けていたので目の前のホワイトボードが大きく感じます！

私は日本の大学で経済について学び銀行員になる夢があります。そのためにも今は大学進学に向けて試験対策に力を入れて勉強していきたいと思います。

インタビューのまど

現在、神戸YMCAでは日本語能力試験の対策授業をオンラインで受講できます。オンラインだからこそ全国に住む外国人の方とつながることができます。多くの方に神戸YMCAの日本語教育に触れ日本での生活がより快適なものとなることを願っています。

## こども園レポート

9月26日(土)、心配していた雨もあがり、幼保連携型認定こども園 Y M C A 保育園 西神戸 Y M C A 保育園、神戸学園都市 Y M C A こども園 (神戸市西区学園都市)の5歳児(ゆり組)の「ふれあい運動会」が開催されました。

コロナ禍で感染症対策をとりながらの運動会！保護者の方々もご参加いただき、ダンス、玉入れ、リレー、パラバルーンに、今年はお楽しみクイズのブレイクタイムもとり、楽しい時間を過ごせました。保護者、地域の方々、それに練習から当日まで校庭を快くお貸しいただきました小学校関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。



## 西宮市留守家庭児童育成センター



留守家庭児童育成センターとは、就労等により昼間、家庭に保護者がいない児童に、放課後や長期休業期間中、適切な遊び及び、生活の場を提供し健全な育成を図るため、西宮市が各小学校内に設置している施設です。西宮 Y M C A は、3小学校(用海、浜脇、香櫨園)の全10センター約500人規模の運営を担っています。春先からの新型コロナウイルス対応の中、指導者は、改めてこれまでの行事を見直し、日々の生活の重要性を再確認する機会となりました。子どもたちはいつもとは違う時を過ごしていましたが、一人一人が、消毒や手洗いを習慣づけ、育成センターでの日常に戻りつつあります。何が日常で、何が制限されているかは、その時の子どもたちの過ごした時間(期間)、取り巻く環境(枠)で異なりますが、ストレスを感じている状況の中でも元気に過ごし、環境に適応していく姿を見ると、改めて子どもたちのたくましさを感じることができました。子どもたちの元気な姿を見ると、大人も勇気をもらいます。

## 地区体育館だより

新型コロナウイルス感染症対策(距離の確保、利用者リスト提出など)を実施して体育館を運営しています。10月より秋季教室が再開され多くの人々の賑やかな声に戻ってきています。地区体育館(東灘、須磨、垂水、西)運営は館内だけでなく、出張指導、講習会など館外への活動にも取り組んでいます。

例年であれば、5、6月に市民救命士講習会、水上安全講習会、9、10月に体力測定、11、12月に親子体操、幼児体操、クリスマス会など多くの依頼がありますが、新型コロナウイルスにより延期もしくは中止する事態になっていました。

様々な制限が緩和され、それにあわせるように出張指導などの

依頼が増えてきています。感染症対策を万全に行い、これからも地域と共に進む体育館運営を行っていきます。

皆さまの来館をお待ちしています！

### 【須磨体育館改修工事情報】

リニューアル(空調設備設置、床面張替)のため以下の工事を予定しています。

- ・競技場 2020年11月30日(月)まで工事の為、利用不可。  
12月1日(火)より利用可。
- ・体育室 2020年11月30日(月)まで利用可。  
12月1日(火)～2021年3月31日(水)まで工事の為、利用不可。

## チャリティーゴルフ大会が開催されました

(ワイズメンズクラブ六甲部主催)

10月28日(水)、絶好の秋晴れの下でチャリティーゴルフ大会がワイズメンズクラブ六甲部(安行英文部長)の主催で行われました。コロナウイルス感染リスクを下げるため、プレイ終了後の表彰式や懇親会は行わず、前半ハーフラウンドのダブルペリアで順位を決定するという方法で行いました。24名の参加を得て楽しみと交わりのひと時となりました。プレイ中はマスクを外して会話は控えめ？にしつつ、久しぶりの解放感に浸ることができました。

頂いたチャリティーは主に学生支援のために用いさせていただきます。また、千刈カンツリー倶楽部様にも多大なるご協力と景品等のご支援を賜りました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 灯台



総主事  
井上真二

NO.29

## 「ポジティブネット募金、 国際協力募金と世界YWCA/YMCA合同祈禱週」

神戸YMCAは新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言発令下において、全国のYMCAと共に「はなれていてもつながっている」ことを呼びかけ、様々な取り組みを行ってきました。そのひとつがポジティブネット募金で、子どもたちに学びや体験機会を提供するため、ユースの学びと生活を支援するため、誰もが公平に夢をかなえるチャンスのある地域社会の創造のために支援をお願いしています。

また、今年も「子どもが、未来を創る」というスローガンを掲げ、教育支援、多文化共生、難民支援や災害支援のための国際協力募金を行っていますし、1904年以来、世界YWCAと世界YMCAは毎年11月の第2週目の日曜日を起点とする1週間を合同祈禱週とし、共に祈りの時をもっています。今年のテーマは「希望の光：実践をともなう霊性によって、レジリエンスのあるコミュニティを創る」です。

YMCAは175年の歴史の中で紛争、自然災害、感染症等様々な困難に対して、共に祈り、力を合わせながら、悲しみの中にある弱くされた人々を支援し、それらを乗り越えてきました。YMCAは困難にぶつかっても、しなやかに回復し、乗り越える力、レジリエンス(resilience)がある組織です。それはイエスキリストに示された愛と奉仕の精神に基づき、社会や地域の課題と向き合い、その使命を果たすために会員運動や事業を展開し続けているからです。

今年は新型コロナウイルスの影響により各種会合やバザー、チャリティイベントを中止や縮小しているため、祈りを合わせたり、募金への協力をお願いする機会が少なくなっています。引き続き、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

## ライフ&シニアハウスからの近況報告

協働事業者・長谷工グループ生活科学運営より  
介護付有料老人ホーム「ライフ&シニアハウス神戸北野」ハウス長 松本剛志さん

共助・自立を土台においた「終の住まい」づくりに取り組んできた弊社が、神戸YMCA三宮会館にホームを開設して4年目を迎えました。この間、地盤・人脈の助けを借りながら、学生との交流や双方向でのボランティア活動など、普通の高齢者住宅ではできない特色ある運営が築かれつつありました。

しかし、ここに来て、新型コロナウイルスの影響で、共用レストランは入居者だけの利用となり、毎年続けてきた合同の秋祭りも中止。レストランでは間隔をあけて座り、体操の後のティータイムも控え、交流する機会が減りました。

そんな中でも、春先、花屋さんが奮発してくれた桜で花見を楽しんだり、介護フロアではオンライン面会をスタートしたり、会話がダメなら映画観賞会を検討したり。感染者を出さないよう、消毒、検温、来館者のチェックを徹底しつつ、自分たちでできることを、少しずつ始めています。YMCAや地域の皆さまと再び交流できる日を、入居者もスタッフも楽しみにしています。自立居室、介護居室ともにご入居できますので、お問い合わせください。



ご入居等に関するご相談等は下記にご連絡ください。  
長谷工シニアホールディングス 関西入居相談室

☎0120-784-177



## 連載 YMCAキャンプ100年 Founding Fathers of the Camp

1920年、六甲山の山麓で始まったとされるYMCAキャンプは、今年で100周年を迎えます。

### <特別編 環境問題を「場所」という視座から>

キャンピングサービスセンター 阪田 晃一

連載を1回お休みしてしまいましたので、今回は特別編でお送りします。

2020年、新型コロナウイルスの影響で経済がストップし、その結果大気汚染が抑制され、COP21で採択された削減目標に限りなく近い状態になったと言われていました。人間が自然資源を使うペースは、地球環境にとって回復不可能なダメージを与えていると、もう何十年も言われています。では、この地球上から人間が消えて無くなれば、地球は元どおりの地球に戻るのでしょうか？

ベアード・キャリコットは『地球の洞察(1994)』の中で、環境倫理の概念と必要性について、世界中の様々な民族の土着の「倫理観」と、西洋的/東洋的価値観の変遷を関連づけながら、詳細に報告しています。その中でも今回は、「場所性」について考えてみたいと思います。

西洋には「大地(地球)は偉大な「女神」である」という土着の信仰があり、動物と一緒に「男性」人間の生贄を行っていた時代があります。ちょうどこの人間が狩猟採集生活から農耕生活(定住)へと移行する特別な時代は、母権制でした。この「母権制の精神」は今日、エコ・フェミニズムとして環境倫理の分野で復活しています。そして科学の領域ではジェイムズ・ラヴロックが「ガイア(女神)理論」として復権させました。ガイア仮説は「生物圏とは、たんに陸、海、大気のそれぞれの本来の生息地に生きる生物の全範囲というだけではなく、それ以上なのかもしれない」という言葉で、「地球は単一の有機体(生き物)」であるとします。これは「地球上の生命の存在を可能にする不安定な最適値が、生物によって維持されている」、つまり地球上に生物がいるという前提で、地球=環境はわざと「均衡とは程遠い非常に不安定な状態」で存在していることとなります。地球の表面温度を例にとってみると、生命がこの地球上で生きていくために0度~100度に維持される必要がある表面温度は、生命が誕生してから太陽エネルギーは全体で

30%急上昇したにも関わらず、何十億年ものあいだ驚くほど一定に保たれているということからもわかります。しかし今、その均衡がいよいよ崩れ始めているのです。

さてこのガイア仮説は、「人間中心主義」的な視座から「生態系中心主義」的な視座に視点を切り替えることでより深く理解できます。環境問題に対する命題を「私たちは気候変動に対して何をすべきか？」という視座から、「地球という場所で私たちは(本当は)どう振る舞うべきなのか？」に切り替えて考えてみるのです。もっと身近な、私たちが慣れ親しんでいる余島キャンプ場に置き換えてみましょう。「余島のために何をすべきか？」ではなく、「余島は我々に何を求めているのか？」という視座に立つのです。

場所性を中心に据えた「番人の環境倫理」は、旧約聖書レビ記を参照します。

「土地は永久に売られてはならない。なぜなら土地は私のものだからである。そして私にとって、あなたたちは私の土地に寄宿し滞在するものにすぎない(レビ記25章23節)。」

これまで長い時間、私たち人間は自分たちの幸福を追求し続けてきました。資本主義経済は、環境に対する影響に無自覚で成長し続けています。本来は誰のものでもない、しかしみんなのものである森や山は、金銭で売買されています。この100年、キャンプ場を建設し、人間中心主義的に進められてきた組織キャンプは、その資本主義社会を押し進めてきた原動力という側面もありました。

この大きな節目に私たちは、場所という視座に立って、これから人間が地球という船の上でどのように行動すべきなのか？という倫理についての洞察を、深めなければならないのではないのでしょうか。キャンプの歴史だけでなく、キャンプ場があるその土地=地球についての人間の知の集積も、これを機会に参照していきたいと思っています。

## 神戸YMCAポジティブネット募金

### 1. 子どもたちに学びや体験機会を提供するために 目標額400万円

YMCAはコロナ禍にあっても、子どもたちの学びや体験の機会を大切にします。CampingOnlineとして、子どもたちがオンラインで感染症拡大防止の知識を学んだ上で、野外活動やキャンプへ参加する取り組みを開始しました。

また、子どもたちの水泳プログラムでは、密を避ける対策として隔週でプログラムを行い参加者数の制限を行ってきました。(8月まで)YMCAではプログラムを通して「自らの命を守る」教育を実践しており、感染症対策に対する正しい知識を伝える機会にもなっています。子どもたちの大切な命を守り育てるプログラムを継続して行うためにご支援ください。

### 2. ユースの学びと生活を支援 目標額800万円

ユースの学びと生活を守るために神戸YMCA専門学校日本語学科、ホテル学科、高等学院の学生を支援します。オンライン授業のための受講環境整備や家計急変等経済支援のために給付金の支給や生活物資支援等を行いました。

また、子どもたちにとって憧れのユースボランティアリーダーを育み続けるために感染症予防の徹底等、ユースが安心して活動できる対策を講じています。ユースの学びや生活支援にご協力ください。

### 3. 地域支援 目標額300万円

どんな時でも、YMCAは子どもたちの居場所を守ります。緊急事態宣言中も保育や特別な支援が必要な子どもたちが安心して過ごせる場所、保護者が安心して子どもを預けられる場所を提供し続けてきました。

今後も感染症予防対策を講じた上で、地域の子どもの居場所を守り続けていくためにご支援ください。

また、YMCAではオンラインを駆使した新規プログラムをスタートしています。1人でも多くの方がYMCAとつながり、健康的な生活を維持するためのオンライン環境整備にご支援ください。



神戸YMCA寄附サイト <https://kifu-kobeymca.org>



## 第21回ワイワイまつり ~ONLINE~

学園都市会館では、10月17日(土)に第21回ワイワイまつり~ONLINE~が開催されました。コロナ禍において、様々な行事が取りやめになっている中、学園都市会館では少しでも地域のみなさんのために何かできないか、今まで続いてきている取り組みを形を変えてでもできないかという考えのもと、今回はオンラインで保育士によるゲームや劇、キッズダンス、太極拳、シンクローの発表、ラッキー抽選券を発信という形で開催することにし、「はなれていてもつながっている」ことを感じていただきました。初めての試みで、準備を含めて、なかなかうまく進まないこともありましたが、協賛してくださった方、当日のオンライン配信をサポートしてくださったボランティアの方など、多くのご支援をいただき、無事に開催できたことに心から感謝いたします。

これからも地域の皆さまとつながっていくことができるよう歩んでまいります。

## 第51回全国YMCAリーダー研修会実施

9月19日(土)~21日(月)に大阪YMCA主管で開催されました。六甲山YMCAオンラインでの参加に神戸YMCAから5名が参加しました。

「私と世界に希望を~私が輝くと、世界はもっと輝く」をテーマに、環境問題や教育格差などの社会課題について議論し、これからのアクションについて計画を立てました。

### 日本宝くじ協会より集会用テントのご寄贈

今年も一般財団法人日本宝くじ協会の助成より、集会用テントを寄贈していただきました。地域の方々を招いた行事、キャンプや野外での青少年育成活動、また災害による被災地の支援活動等に用いさせていただきます。心より感謝申し上げます。

#### 園庭開放と地域ふれあい運動会

実施日(期間): 2020年7月1日(水)~10月31日(土)

参加者数(利用者数): 延べ1,000名



神戸市西区の住宅街に位置する、当該地域では子育て世帯が多く保育園の園庭や遊具を、子育て世帯の一般の方々に開放しています。

また、小学校での児童の猛暑対策などでも日本宝くじ協会のテントを共同利用し、とても学校からも必要とされています。地域の運動会をコロナ禍で実施しましたが、たくさんの乳幼児から高齢者までが利用できて感謝しています。

### 感謝・寄附

(敬称略、順不同)(前号掲載以降~10/29現在)

寄附・献金 川原 真、高道 彰子

#### 学生生活支援募金(新型コロナウイルス感染症による)

中道 基夫、武田 寿子、八十島 典子、小笠原 美根、上野 恭男、桑野 友子、柏原 佳子、福原 吉孝、長内 建佑、鶴丹谷 剛、河野 彰、尾上 尚司、尾上 美絵、山口 政紀、山口 洋子、岡野 泰和、山本 常雄、万本 敬一、大西 弘一、中村 博一、藤井 良三、前橋 延光、前橋 禎子、三宅 敬、武本 雅行、進藤 啓介、有限会社井上ビル

#### ポジティブネット募金

大野 勉、田中 久美子、木村 麻里恵、河合 睦文、藤田 良祐、中道 基夫、今田 恵子、山本 常雄、山ノ井 景子、中田 一夫、村田建設株式会社

国際協力募金 社会福祉法人頌栄会 西鈴蘭台頌栄保育園

この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。感謝をもってご報告します。

ファミリーウエルネスセンター  
ランゲージセンター  
専門学校  
西宮YMCA  
余島野外活動センター  
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)  
国際・奉仕センター  
ウエルネスセンター学園都市  
西神戸YMCA  
神戸YMCA高等学院  
YMCAおひさま

☎078(241)7202  
☎078(241)7204  
☎078(241)7203  
☎0798(35)5987  
☎0879(62)2241  
☎078(241)7216  
☎078(241)7204  
☎078(793)7401  
☎078(793)7402  
☎078(793)7435  
☎078(793)9077

西神南YMCA  
須磨YMCA  
YMCA保育園  
西宮YMCA保育園  
西神戸YMCA保育園  
神戸学園都市YMCAこども園  
神戸YMCAちとせ幼稚園  
YMCAちとせ保育ルーム  
西神戸YMCA幼稚園  
西宮つとがわYMCA保育園  
あかしこども広場  
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(993)1560  
☎078(734)0183  
☎078(794)3901  
☎0798(35)5992  
☎078(792)1011  
☎078(791)2955  
☎078(732)3542  
☎078(786)3821  
☎078(997)7705  
☎0798(26)1016  
☎078(918)6355  
☎078(794)3045

